

本間玄調元旦試筆の詩意について

山中 太木

本間うた女史によって本間家伝承の古櫃の中から取出された元旦試筆の一篇の漢詩についてその詩体、字句解、詩意、作詩年代の推定などを試みたい。

(大阪医科大学名誉教授)

明治戊辰戦争越後口派遣会津藩従軍 医師の記録について

蒲原 宏

明治戊辰戦争で敗れた会津藩側の戦傷病者治療記録は、敗戦による戦災と藩の瓦解のため存在しないとされていた。最近、越後口に派遣された、新潟県内の旧会津藩領内の従軍医師の従軍記録を発見することができたのでその概要を報告する。それは次の二つである。

一 佐藤見瑞「越後方面御陣中経験治療録」

佐藤見瑞（一八〇九～一八七八）、諱は延敬。文化六年、会津藩領蒲原郡東山村夷棚（新潟県東蒲原郡上川村夷棚）の農家佐藤若之丞の子として生まる。医学の師系は明らかでないが、漢蘭折衷医として会津藩領郷中医で、明治元年五月二日から七月二日まで、会津藩木村忠右衛門隊付軍医として、越後国東大崎、加茂、栃尾方面の戦闘に参加、前記

治療記録を残す。

戦後明治六年大田小学校教師となり、明治十一年三月十七日病没。護光院護善良温恭居士。見瑞の記録は半紙一四丁に従軍中の治療が記され、五月五日には移動中の赤谷村の女性、小児の診療にも応じている。

記録されているのは延べ百人。藩士五九人、仲間、人足一五人、住民二六人（僧一、女五、子供三、男一六、村役一人）。戦傷死者三人、いずれも腹部銃創と四肢出血が死因であった。外科的治療は銃創患者一〇、他の創傷四、破傷風三、癰六、足痛六の計二九人。破傷風の終末についての記載はない。下疳、淋病の性病三人が藩士にみられる。内科的治療は風邪、腹痛、下痢、霍乱、食傷など一六人で、八物湯、大承気湯、青竜湯、葛根湯、平胃散、木香丸などが用いられている。ハルサン膏、メイチャなどの創傷治療に終始し、積極的な外科治療は行われていない。佐藤見瑞はすでに六十歳であり、長岡城の落城前後の緊急事態と撤退の混乱の中での支援部隊付の従軍医として、敗退撤収中の医療事情を生々しく記録したものである。

二 江川元逸「旧記輯録」

江川元逸（一八三一～一八九一）、会津領蒲原郡上條村九島（新潟県東蒲原郡上川村九島）の漢方医江川玄利の子として天保二年に生まる。会津藩医小池求内に古方内科、藩医学館で外科、小児科、痘科、本草学を学び、江戸幕府養生医師昆泰仲に内、外科を学んだ藩郷中医師。慶応四年四月二十六日会津藩越後口派遣木本慎悟隊軍医として徴用され、越後国内各地を転戦、八月末まで従軍、戦傷病者の治療を行っていた。戦後は郷里で開業、明治二十四年三月三日六十歳で病没し、九島の正法寺に葬られる。法号肇州院治徳由道居士。従軍時は三十七歳。長岡城落城、奪還、再落城、見附町、与板、栃尾、加茂、三條、八十里越から会津御蔵入への敗走、部隊再編成により、再度、津川国での攻防戦に参加した期間の記録が「旧記輯録」(一)である。半紙六〇丁（札幌市西区西野五條四丁目江川久洋氏蔵）は、後年元逸が従軍中の記録を整理記録したものである。

江川元逸の従軍した木本部隊は隊長以下一五〇名、軍医は江川元逸、佐藤良禎二名。治療準備金一〇両。治療効果あるごとに五両の褒賞金が下付されている。盲貫銃創の弾

丸摘出術をひんばんに行い、他部隊への出張治療も随時行っている。七月十七日水戸藩久我隊の樽藤四郎が大砲弾で「臍ヲ碎キケルカ、我等裁断シテ之ヲ療ス」とあり、下腿複雑骨折患者に下肢切断術まで施行している。しかし、大腿切断術か、膝関節離断術であったのか明らかでないが、合力医師に任じ、米二〇俵の褒賞を受けている。戦闘が激しくなり、江川元逸、佐藤良禎も戦傷を受けたので、急ぎよ会津藩領塔寺村の医師佐藤恒斎が追加配属されたことが記録されている。兵士に対しては傷病者治療のほかに暑中水障、水毒払として「五苓散」「清気散」を配付している。会津藩佐川官兵衛隊の軍医武藤英淳と協力して傷者の治療にあたる一方では、撤退に際し、倉庫内に残留する砂糖の中に毒物を仕掛けて官軍に中毒死を発生させることに加担している。

また従軍中三回にわたって処刑者から胆を抜き取っている。「六月七日喧嘩イタシ田中勇ト云フモノ川村定五郎カ首ヲ斬ル而シテ其胆ヲ取ル」「此日高田藩ノ間諜放火セントシテ忍ビ来ル召捕レ自殺ス。胆ヲ取テ隊長ニ呈ス。隊長ヲ初メ余等好下物トシ酒ヲ酌」「此日、日暮ニ至リ三條ニ

テ生捕井間者九人首ヲ切り胆ヲ取ル」医師として奇異な行動も記録されている。注目すべきこととして、夏期の戦闘の長岡、今町付近信濃川辺で発生した恙虫病について次のように記録している。「今町中ノ島ボンノ木村ノ辺ニ恙ノ虫居リテ敵ノ番兵十四五人モ螫レシ由、但シ重症ナルモノハ死セリ。軽症ナル者ハ四十五日モ病ムト云フ。其形チ疔ノ初発ノ如ク寒熱往来煩渴譫語シ身体紫黒色ニ変ジテ微腫スト云フ。又、螫レシ口少ニシテ分明ナラス云々」とあり、会津軍には一人も罹患者がなかったとしている。会津藩従軍二軍医の記録は敗戦側の実像を伝え貴重と考える。

(新潟県新潟市)